

マテリアルフロー コスト会計 (MFCA)

ISO14051

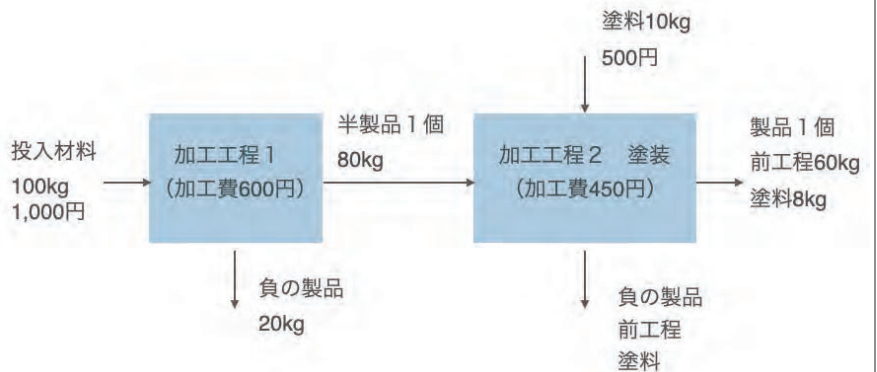
1つの組織にMFCAを導入するための一般的なフレームワークを提供。組織内のマテリアルフローを追跡し、金額評価することで、製品にならないマテリアルロスをはっきりと見つけ、その削減を促すことで資源生産性の向上を目指す。2011年に発行。

ISO14052

サプライチェーンを構成する企業に対して、MFCAを拡張するためのガイドライン。取引企業と協働してサプライチェーン上の資源生産性を向上させることを目指す。企業間の情報共有がカギになる。2017年に発行。

ISO14053

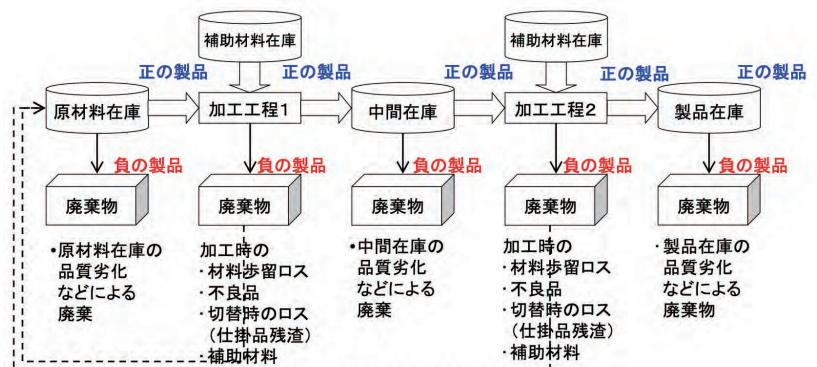
MFCAを導入して資源生産性の向上に取り組もうとする、中小企業を含むあらゆる規模の企業に対して、よりシンプルな方法を用いた、段階的な導入を提案する。マテリアルフローの追跡と測定をシンプルな形にすることによって、導入コストが下がり、また企業の状況に応じて柔軟にMFCAの視点を導入することが可能になる。2021年に発行。



資源生産性向上のために

製造業において材料や部品の流れは重要であるにもかかわらず、企業ごとや工程ごとに把握されており、一貫したフローとしては捉えられていないことが多くある。これは、サプライチェーンであれば購買の論理が重視されるためである。しかしこのことが、環境問題の視点から見ればマテリアルフローの分断につながり、結果として部分最適を生み出している。

こうしたマテリアルのムダを明らかにするためには、マテリアルフローを物量単位で一貫して捉える必要がある。さらに、そのムダが金額評価されれば、ムダの削減策の費用対効果を見積り、取組みを促すことができる。



経済産業省資料より

長期的な環境経営

ーパラドックスに挑むー

長期的な環境経営の課題

- ・ 環境と経済の両立は動機にはなるが、長期的な環境経営においては諸刃の剣
 - 経済の論理と環境の論理
 - ・ ステイクホルダーの要求は、日々高まる
 - ・ トップダウンの仕組みだけでは、経営者が代わって停滞する可能性
- ➔環境経営の遂行によって直面する矛盾（パラドックス）を受け入れて、どのように対応するか

マネジメントコントロール システムの要素

